

日陶科学株式会社を創設、発展 90歳現役の山田光彦会長に聞く

グローバル人材育成 ウクライナ支援に意欲



「人との出会いが仕事のヒントに」と語る山田光彦会長

90歳にして活躍中の現役会社会長がいる。名古屋市東区徳川2、科学・保健機器製造販売の「日陶科学株式会社」など2社を経営する山田光彦会長で、理科教育や産業技術教育、国際交流などを含めて幅広い分野で活躍している。JICA（国際協力機構）の技術研修や持続可能な開発のための教育を目指す「ESD コンソーシアム愛知」などの組織にも積極的に関わってきた。悲惨な戦争を体験し、ロシアのウクライナ侵攻にも心を痛め、現地関係者への寄付などを検討している。山田会長の平和への想い、エネルギッシュな活動の原点を聞いた。

（聞き手は中原道文・編集顧問）

中原 77回目の終戦記念日。戦争体験を聞かせてください。

山田 小学校高学年の時は空襲警報が鳴るたびに早く帰宅できたので喜んでいました。6年生のころ、米国機の名古屋襲撃を、花火のようだと言われ、瀬戸の山から見下ろして見ました。終戦は中学1年の時で、数か月前に先生が日本は負けるような話をしたので、家で話したら親父にひどく叱られました。洗脳された軍国少年で、少年航空兵への志願も考えたこともありました。2年ほど上の先輩は実際に志願して特攻隊員となり命を落としましたが、その時は名誉なことだと思っていましたね。

——戦後、考えが変わりましたか。

山田 家や親せきなどに被害はなかったのですが、12歳上の兄がラバウルから生還し、現地では戦うどころではなく、山の中を逃げ回っていたという話を聞き、戦争の悲惨さ、愚かさを痛感しました。

——ロシアのウクライナ侵攻から半年。戦争

をどう見えていますか。

山田 人を殺す戦争は許されません。戦争中、私も警報で夜も眠れなかったですが、ウクライナでは今それが日常だと思います。出口が見えませんが、米国が強く出て、プーチンロシア大統領が反省し、一時でもいいからまずは停戦に持ち込めないか、と考えています。

——ウクライナ支援も検討中とか。

山田 はい。知人に「ウクライナを是非支援したい」と申しましたら、話が次々と進み、「ESD コンソーシアム愛知」と「JICA『産業技術教育』研修」の関係者が集うこととなりました。既に100万円ほどは目途がつき、マスクや医療検査器具の寄付を含めて支援方法を皆さんと考えています。

特許の「土練器」で発展

——会社も設立61年。“還暦”までの道のりは。

山田 会社を設立して4年ほど経ったある展示会で、粘土で花瓶づくりの実演を頼まれました